

## 謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

岸	文雄	氏	山陽小野田医師会	11月26日	享年	69
村	本修敬	氏	山口市医師会	12月1日	享年	92
坂	康雄	氏	下関市医師会	12月6日	享年	64
近	藤龍一	氏	光市医師会	1月14日	享年	82
後	藤博	氏	下関市医師会	1月16日	享年	75

## 編 集 後 記

最近の医師会の各種会合・研修会の中で盛んに叫ばれているのが若手医師の加入促進であり、特に日本医師会に加入することの意義やメリットが繰り返しアピールされている。

そうした中で、ふと・・・「県医師会の役員」となることについて、どのようなメリットがあるのだろうか・・・と考えてみた。あくまでも、役員になって2年ほどの中で、かつ、私の独断的な考えであるのでご容赦願いたい。

まず、何と言っても全国の医療関係者の意見や国の動きがわかることである。意識すれば新聞やネットで把握できるのかもしれないが、膨大な情報の中ではなかなか大変である。その点、日本医師会を中心に発信される情報は上手くまとめられており、説明もわかりやすい。

同じ話を医療コンサルトの主催する講演会などで聴くと、まあ・・・簡単な話を難しく説明する！！コンサルタントとしては難しい話にしないと出番がないので仕方ないのかもしれないが・・・。

関連して、担当理事として、いろいろな会議に参加することで知識の整理と現実の病院で役立つ知恵も得ることができる。これは毎日の業務の中ではなかなか得難い知識である。

また、さまざまな医療関係者との「顔の見える関係」ができるのも助かる。もともと行政に勤務していたこともあり、医師会や大学の先生方、病院長と接することが多かったのであるが、医師会の役員ということでいろいろな場で面識ができるのはメリットかもしれない。

このように書くと、医師会の役員の立場で自分のメリットとはなにごと！・・・との誹りを受けそうであるが、この度はそのことは完全に棚に上げて思いついたことを書いてみた。これを読まれて、少しでも共感していただき医師会の役員にも興味を持ってもらえる先生がおられれば幸いである。

ただ、筆不精の私にとっては、広報担当役員ということで頻繁に原稿の執筆をしないとイケないのは・・・ちょっとつらいかも・・・。

(理事 岡 紳爾)